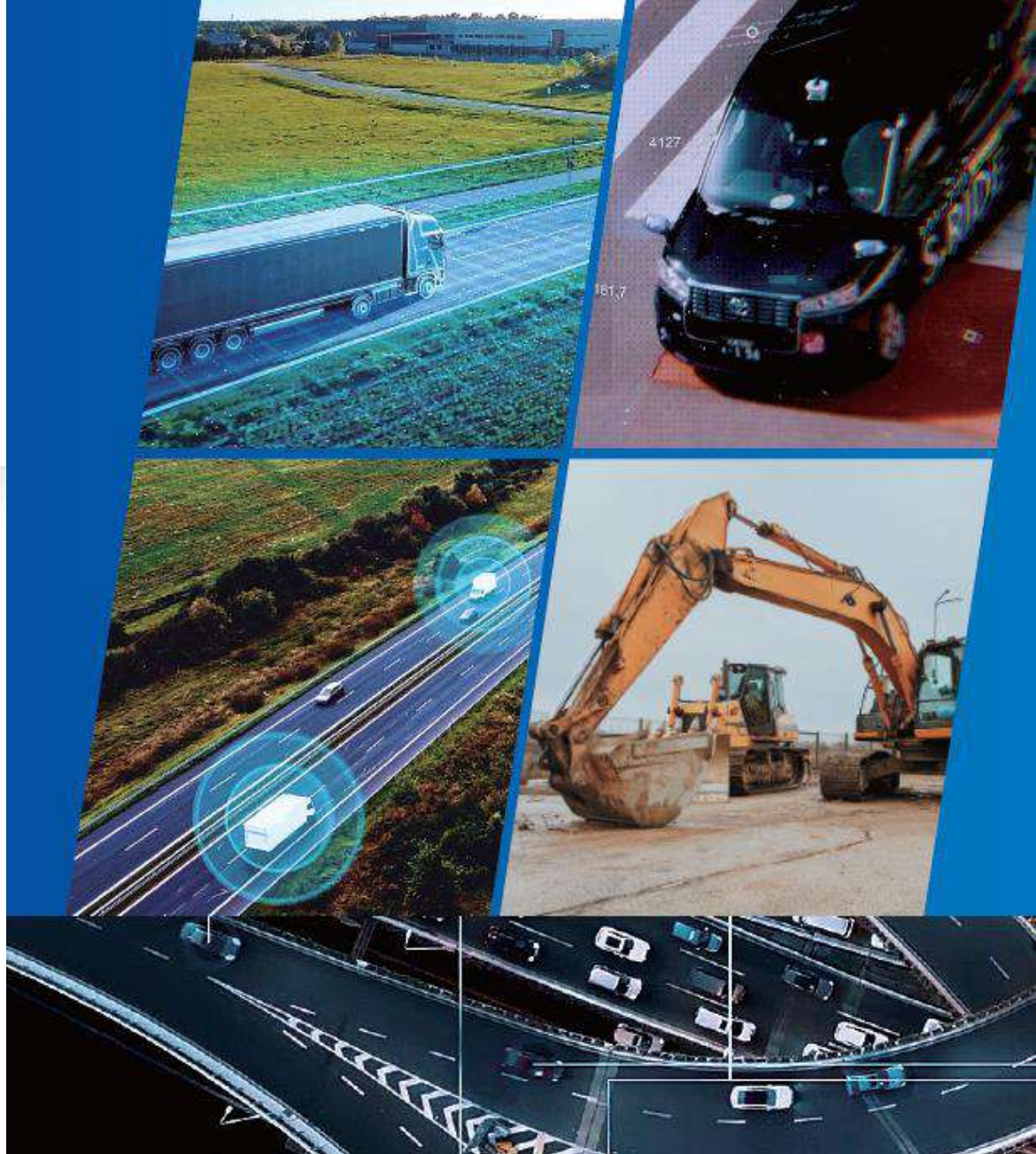


発表タイトル
共同輸送DBを活用した自由共同
輸送の実現とフィールド構築

2024.7.5 TDBC Forum 2024

WG05A
共同輸送データベース構築とその先の
フィジカルインターネットの推進



WG05 共同輸送データベース分科会のビジョン

「動態管理プラットフォームの情報資産を 活用した新たな価値創造」

【WG05A 共同輸送データベース分科会のビジョン】

動態管理プラットフォームから集約した輸送情報をデータベース化する事によって共同輸送を自由に検討できる場を実現する。

共同輸送DB参加企業募集

TDBC会員であれば**完全無料**で参加可能
(成約仲介手数料等の追加費用無し)

[紹介用パンフレット](#)

参加手順

TDBC事務局に連絡いただき
共同輸送DBのアカウントを発行



年間輸送データ（発地・着地・運行便数）
をcsvフォーマットでご用意し、DB画面で登録いただく



自社の希望条件を元に検索し、
事業者間で自由に共同輸送の検討

物流クライシスが迫る『北海道』でのトライアル

北海道における物流危機に 対する協業の取組み

2024年7月5日
北海道物流研究会
(イオン北海道株式会社)
石田 将

アジェンダ

1. 自己紹介
2. イオン北海道会社概要
3. センター施設概要
4. 物流改善への取組み
5. 北海道物流研究会発足
6. ALLHOKKAIDO協業を目指して

○名前 ^{いしだ}石田 ^{しょう}将

○所属企業、部署

イオン北海道株式会社

商品本部 商品戦略部 物流改革マネージャー

○経歴

北海道ジャスコ(株)入社

イオン(株)出向 イオン北海道XDセンター長を担当

マックスバリュ北海道(株)にて物流システムを担当

イオン北海道(株)にて石狩PC開設を担当後、現職

物流に携わり約20年

2-①イオン北海道会社概要

経営
ビジョン

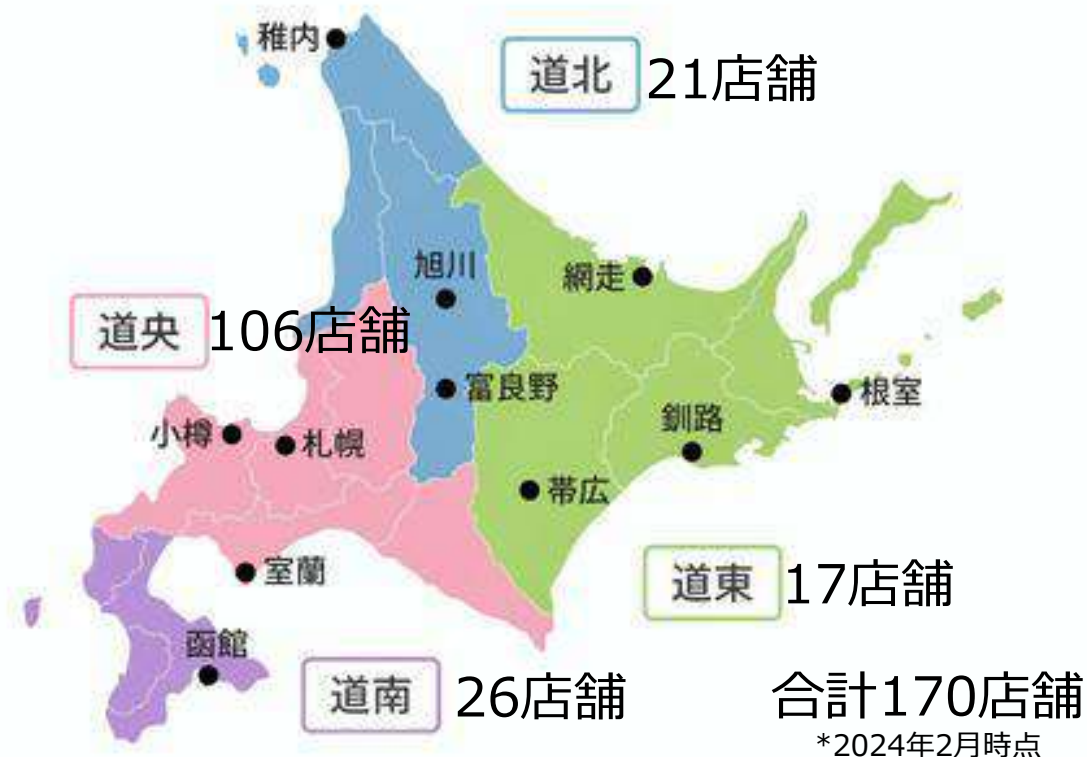
“北海道のヘルス&ウェルネスを支える企業”になる。

お客さまの「健康」で「楽しい」、
豊かな毎日をお手伝いします。

新たな地域共生の
カタチをつくります。

従業員が
最大の資産です。

透明で持続性と安定性の
ある経営を実践します。



- 売上高 3,331億円/年間
- 従業員数 約19,000人
- ※北海道の300人に1人

2-②イオン北海道会社概要

総合スーパー(GMS)

「イオン」「イオンモール」

39店舗



スーパーマーケット(SM)

「マックスバリュ」

68店舗



ディスカウントストア(DS)

「ザ・ビッグ」

20店舗



小型スーパー

「まいばすけっと」

42店舗



その他イオンバイク1店舗

3-①センター施設概要

センター名	温度帯	センター所有者 (家主)	業務委託先企業	3PL企業
北海道RDC	常温	センコー(株)	イオングローバルSCM(株)	センコー(株)
北海道XD	低温 (5℃、15℃、0℃、-25℃)	エアウォーター物流(株)	イオングローバルSCM(株)	エアウォーター物流(株)
帯広DP	低温 (5℃、15℃)	よつ葉乳業(株)	イオングローバルSCM(株)	エアウォーター物流(株)
石狩PC	低温 (5℃、15℃、0℃、-25℃)	イオン北海道(株)	イオングローバルSCM(株)	エアウォーター物流(株)

センター名	所在地	出荷量
北海道RDC	北海道北広島市北の里3-27	90,000CS/日
北海道XD	北海道江別市工栄町19-8	68,500CS/日
帯広DP	北海道河東郡音更町新通20丁目3番地	-
石狩PC	石狩市新港南2丁目9番4	40,000CS/日

3-②センター施設概要

北海道RDC



北海道XD



石狩PC



帯広DPは北海道XDの「分所」としての位置づけ

3-③イオン北海道センター施設概要

【北海道全体店舗】

…イオン	39店舗
…マックスバリュ	68店舗
…ザ・ビック	20店舗
…まいばすけっと	42店舗
…イオンバイク	1店舗
計	170店舗

便数 : 436便/日
走行距離 : 21,800km/日
※地球半周分の距離

東は根室市常磐町
A根室店 (480 km)

北は紋別市花園町
A紋別店 (280 km)

南は北斗市七重町
A上磯店 (300 km)



3-④センター施設概要

北海道RDC 仕分けソーター/自動倉庫



設備

仕分けソーター	: 2系統 処理能力 10,000ケース/時間
自動倉庫	: 10,000PL
層デパレタイザー	: 3台 (処理能力700ケース/時間)
接車バース数	: 出荷54 入荷18 合計72バース
自動搬送機	: 30機
ネステナー	: 600基



石狩PC 順立て機



店別品群別のケース仕分けの自動化
3アイル (2列×11連×5段/アイル)
間口数：2, 200間口
リフト：6台
シャトル台数：30台
出庫能力 2,000CS/h
入庫能力 2,000CS/h



2021年8月 イオン石狩PC新設・稼働

環境与件整理を実施

- 人件費高騰、燃料費高騰、ドライバー不足
- 2021年新センター（石狩PC）の稼働
- 2024年度問題（ドライバーの時間外労働時間の上限規制）



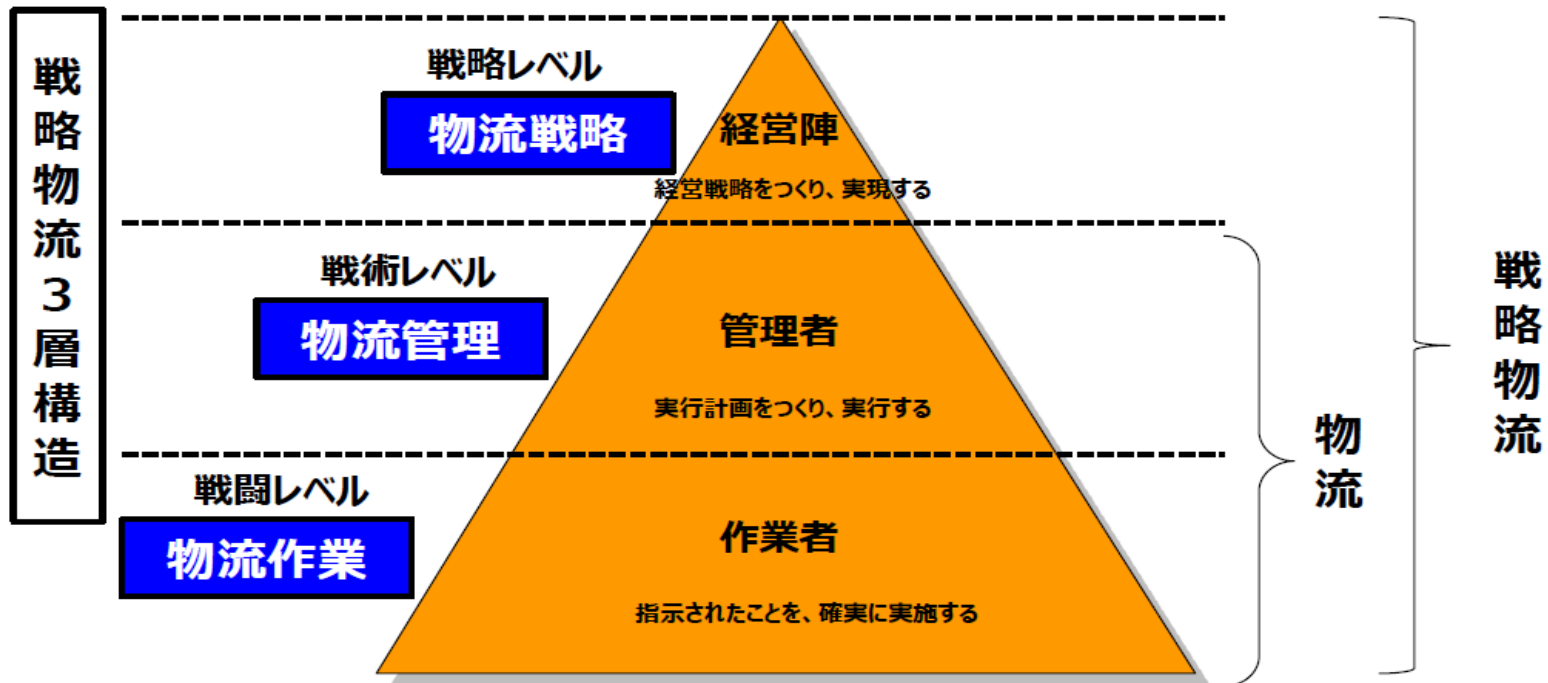
従来の形態に囚われない、新たな物流体制への転換が必要

物流改善を推進する会社体制の強化

○ 物流改革を進めるための考え方と仕組み

企業戦略に基づいた物流になるよう拠点の動かし方や作業、管理の仕組みを変化させていくために「戦略」「戦術」「戦闘」のレイヤーで戦略性を持たせて改善スピードを上げていく体制づくり

- ・ 毎月定例会議を実施 共同でコスト削減、収入拡大の見える化と政策進捗を図る
- ・ 経営陣直接参加により素早く経営判断と連動させることで業務プロセスの効率化を図る



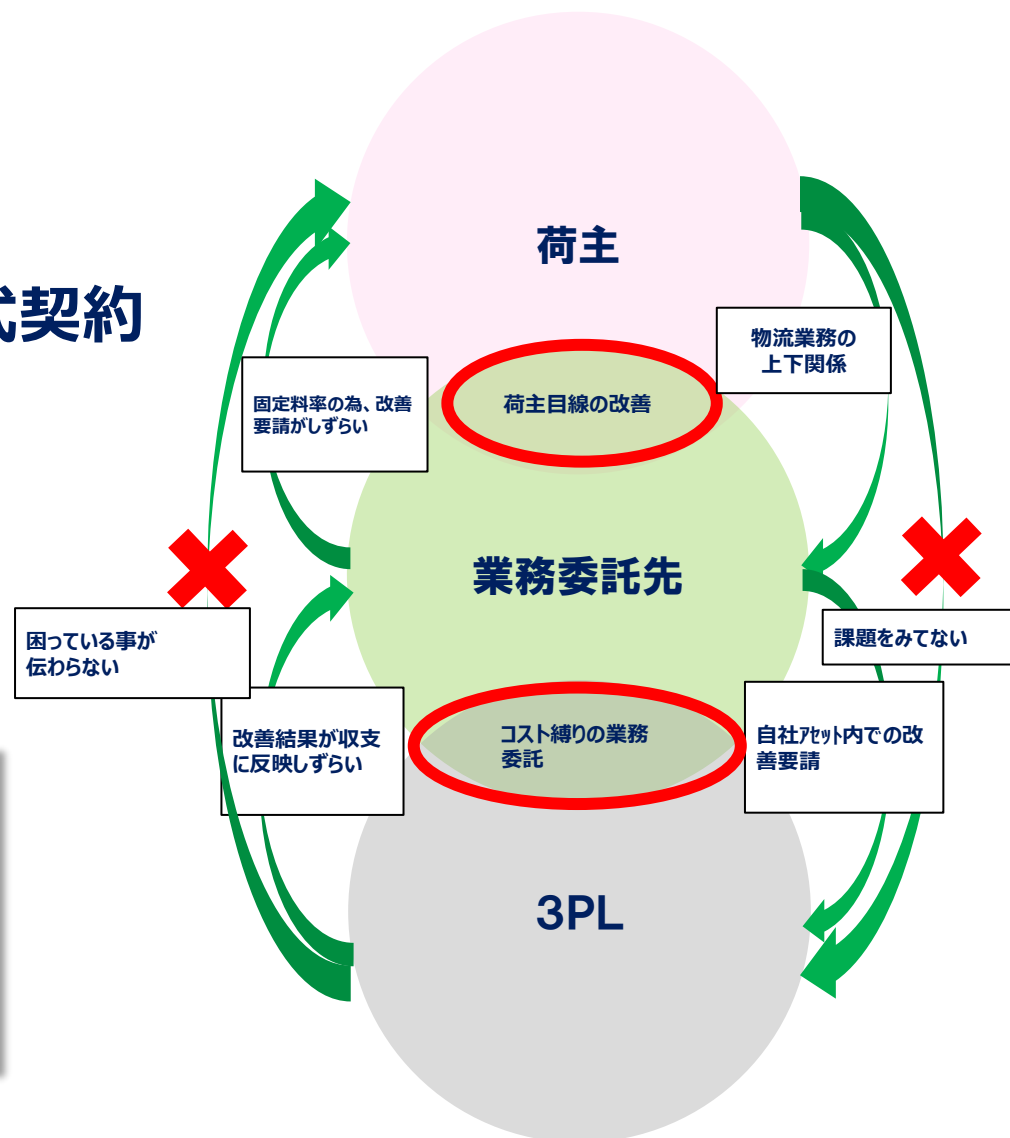
実施前

従来の進め方

契約形態：固定従価制方式契約

- ・荷主と業務委託先は上下関係
- ・荷主は自社の売上/利益優先の改善提案
- ・業務委託先は自社アセット中心に考えざる得ない
- ・3PL企業は改善が収支に反映しづらい
- ・物流単独の改善施策となり限界がある
- ・改善結果に関わらず料率固定
- ・発生コストが見えない
- ・環境変化が共有されず、対応が遅れる

上下関係
(荷主の売上/収益優先)



実施後

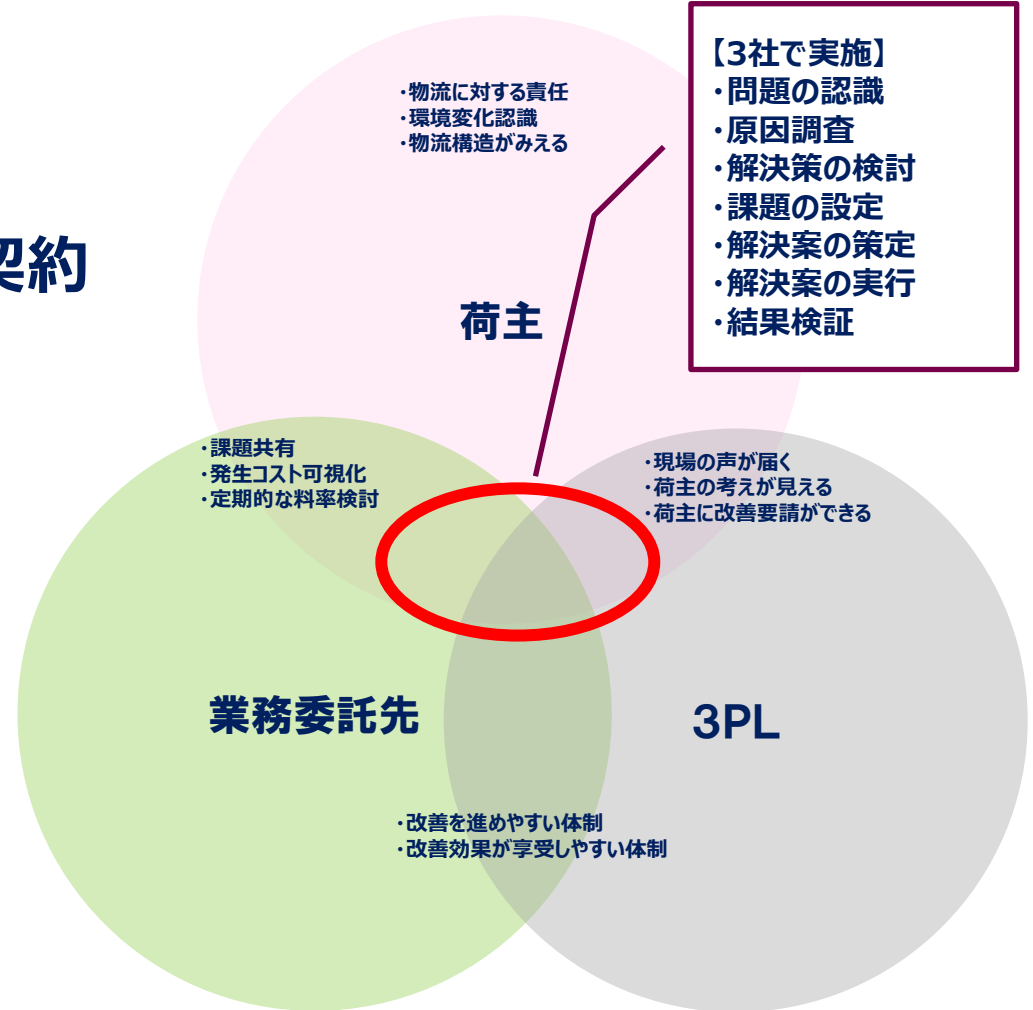
新たな進め方

契約形態：オーブンブック方式契約

- ・荷主、業務委託先で戦略的パートナー関係を構築
- ・3PL企業を同等に戦略的パートナーとし、最適体制を構築
- ・物流を共通のアセットとして課題解決に取り組む体制
- ・環境変化の共有化と迅速な対応
- ・改善の責任所在の明確化と自責対応
- ・効果の最大化を目指し、その利益を分配する仕組みの構築

戦略的 パートナー

(物流を共通のアセットと考える)



物流効率最大化の為に荷主も自責で改善に取り組む

持続性、安定性且つ効率的な物流
の実現に向けて荷主自ら変革する



イオン北海道運用の変更

納品便比率の変更

発注リードタイムの変更

取引先センター納品時間変更

店着時間見直し

物流センターの人時不足、ドライバー不足や2024年問題によるドライバー労働時間規制に伴う配送能力不足へ対応を3社で協議。
作業効率化、配送効率化を実現する為にイオン北海道で調整すべき4事項を洗い出し、荷主責任として対応をコミットする。

4-⑥ 物流改善への取組み

改善指標項目	実施前	実施後	効果
納品便比率	朝便 90 : 昼便 10	朝便 73 : 昼便 27	朝便▲17%減 昼便+17%増
朝便店舗納品時間	時間指定納品 (最終8:00まで)	初便時間指定、次便以降時間枠運行 (最終9:30まで)	1時間30分緩和
発注リードタイム	農産 : 前日締め デイリー : 前日締め	農産 : 前々日締め デイリー : 前々日締め	リードタイム+1日増
総量一括納品比率 (通過金額対比)	農産 : 7% デイリー : 16%	農産 : 81.5% デイリー : 90%	農産 +74.5%増 デイリー +74.0%増
センター最大 荷待ち時間	2時間30分	1時間30分	▲40%減
車両運行数	7,058運行	6,679運行	▲5%減
車両数	4,068車両	3,896車両	▲5%減
Co2排出量	1604.7t-CO2	1518.5t-CO2	▲5%減
構内作業人時生産性	57MH/CS	85.1MH/CS	+49%増

当社の物流改善取組みが令和5年度物流パートナーシップ優良事業者表彰にて「物流構造改革表彰」を受賞

AEON NEWS RELEASE

木を植えています
イオン北海道株式会社

2023年12月19日
イオン北海道株式会社

～「着荷主」としての物流の経営戦略化と物流戦略的パートナー関係構築～ 令和5年度物流パートナーシップ優良事業者表彰において 「物流構造改革表彰」を受賞しました

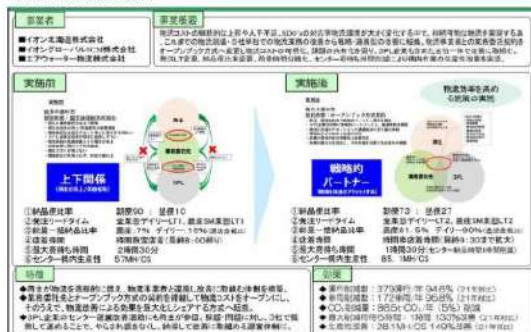
イオン北海道株式会社（以下、当社）は、物流を取り巻く「2024年問題」や「脱炭素」などの課題を解決するべく、様々な取組みを進めております。その中で、当社が「着荷主」として物流を経営戦略化し、イオングローバルSCM株式会社、エアウオーター物流株式会社とともに物流戦略的パートナー関係を構築した取組みが評価され、令和5年度物流パートナーシップ優良事業者表彰において、「物流構造改革表彰」を受賞し、2023年12月18日（月）に授賞式が行われ、表彰状が授与されました。

受賞対象の取組みについては、荷主である当社が物流を経営戦略と位置づけ、コストに関する情報を開示するオープンブック方式契約を業務委託先と締結し、物流コストを見える化する方式へ転換するなど、自社の重要課題として物流改善に取り組み、物流問題、物流コストを可視化し3社で一体となって改善を図ってまいりました。その結果、改善を進めやすく改善効果が享受しやすい体制へと変わり、問題認識、原因調査、解決策の検討・実行などをスムーズに行うことができるようになり、前年対比で運行車両、CO2排出量は約5%削減、最大荷待ち時間も1時間（前年より1.3割改善）するなど取組みの効果が現れ、この度の受賞に至りました。

当社は、行政や各企業と連携して物流課題の課題解決に向けた取組み、北海道における物流の効率化を図ってまいります。

＜参考＞

・取組みの概要図と効果



・パートナーシップ優良事業者表彰について

経済産業省及び国土交通省が、物流分野における環境負荷の低減、物流の生産性向上等持続可能な物流体系の構築に向けた荷主企業・物流事業者が連携した取組を普及促進するため、平成18年度より特に顕著な功績があった事業者に対して表彰を行っています。この度当社が受賞した「物流構造改革表彰」においては、「労働力不足対策の推進と物流構造改革の推進」担当した部門員となります。



＜授賞式の様子＞

【本件に関するお問い合わせ】

イオン北海道株式会社 環境・社会貢献・広報・IR部 電話：011-865-9111

協調による安定した物流体制の構築が必要

課題(業界の課題は、今や日本の社会的な問題)

- ・物流コストの上昇(人手不足・物価上昇etc) 2024年問題対策
- ・物流業界の待遇改善(ドライバー高年齢化)

物流業界の価値を上げる為にも…………… 地位向上

「若い優秀な人材が働きたい物流業界へ」

物流を競争領域ではなく、協調領域として「原資獲得」

物流のムリ・ムラ・ムダを省いて、生産性の高い物流を一緒に作る

AEON NEWS RELEASE

木を植えています
緑あふれるイオンです

2023年5月18日
イオン北海道株式会社

～北海道の物流課題の解決に向けて～ 北海道物流研究会を発足します

イオン北海道株式会社と以下の各社は、物流を取り巻く「2024年問題」や「脱炭素」等の課題を共有し対処することを目的として、その解決策を企業横断型で検討する北海道物流研究会を2023年5月18日（木）に発足することとなりましたのでお知らせいたします。

今後、発足の趣旨にご賛同いただいた企業さまと議論を行い、さらなる物流問題の課題解決と新たな北海道物流ネットワークの構築に向けた検討を行ってまいります。

1. 発足の背景と趣旨

物流業界は「2024年問題」や「脱炭素」、その他持続可能な物流を構築するために必要な変革に対して業界全体が課題感を持っております。この度ご賛同いただいた14社と研究会を発足し、物流分野で将来起こりうる課題解決に向けて企業横断型の仕組みを構築し、小売業の物流課題の解決に向けて動き出します。

2. 今後の方向性

物流業界、各社の物流課題の解決および新たな北海道物流ネットワークの構築に向け検討を行ってまいります。

【具体的には】

- ・共同物流の実施に向けた協議、実験取組を行ってまいります。
- ・実験後に順次実験会社数を増やし、本格稼働に繋げてまいります。
- ・最終的には更に北海道全域での展開へ繋げていきたいと考えております。

3. 北海道物流研究会ご賛同企業

株式会社西友、株式会社トライアルホールディングス、北雄ラッキー株式会社、イオン北海道株式会社

※2023年5月1日時点のご賛同企業は14社

※社名公表に承諾を頂いた小売企業（4社）のみ社名を敬称略で掲載しております。

今後、ご賛同企業さまの拡大と産官学の活動としての取組みも進めてまいります。

4. 第一回北海道物流研究会 開催について

開催日時 2023年5月18日（木）13:00～15:00

場所 ロイトン札幌 2階エンブレスホール

（北海道札幌市中央区北1条西11丁目）

※撮影・取材に関しては別途同日16時より記者会見を予定しております。

内部の様子や参加者の撮影・取材はお断り申し上げます。

以上



○記者会見にて
販売においてはライバルであるが、物流面では協力し合う仲間

○会開催風景
社名公表9社
正式賛同5社
計14社で発足
それ以外にも小売企業、行政、銀行、大学と23の企業、団体が参加
総勢59名にて開催



北海道物流研究会・検討領域

配送/車両データ一元化

車両マッチングのデジタル化を推進し、車両マッチング可能性拡大を目指す。経産省の補助金実証実験検討中。

「共同購入/購買」

研究会のマスメリットを活かして物流資材/燃料などの調達コストを削減

メーカーとの「相互配車」

メーカーからセンターへ配送。これまで空車だった帰り便をセンターから店舗への配送に利用。

他小売との「相互配車」

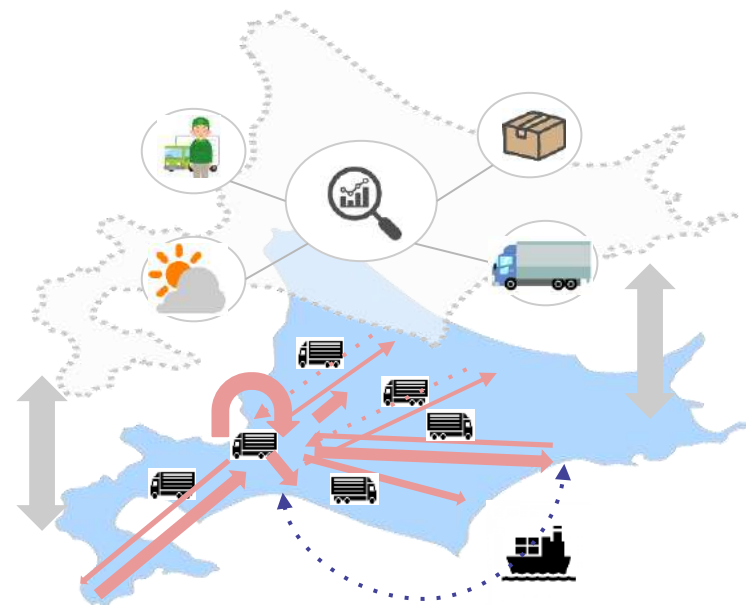
帰り便をより近い他社センター・他社店舗への配送にも利用。走行距離削減と空車削減を狙う。

企業/業種を越えた「拠点集約」

車両・倉庫・在庫を共有しエリアの汎用(共同)センターを運用。
企業に関わらずエリア内店舗に配送

遠隔地「相互配車」

トレーラーのスイッチング・帰り荷もマッチングなど個社ではなく、複数社で効率化を狙う。モーダルシフト含む。



BCP対応連携

同じプロセス(情報収集 etc)は共同化・共有化を図る。

「マテハン規格統一」

小売が納品マテハン・梱包容器統一することにより、共同回収・共同配送を推進。

5-④ 北海道物流研究会発足

● 店舗マテハン回収業務協業

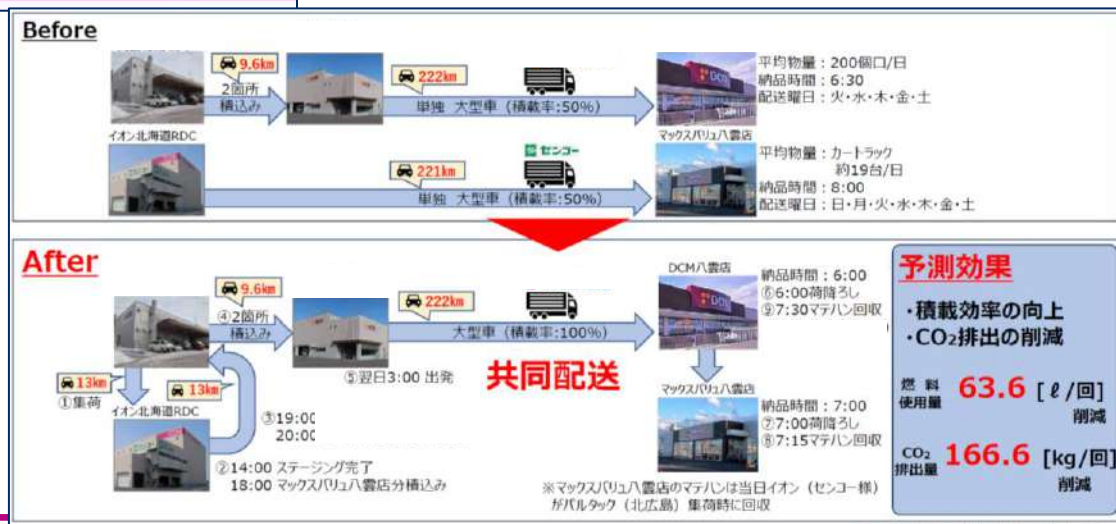


- ・収入を生まない業務の集約 (ムダの削減)
- ・実車率向上による収入増
- ・Co2排出量削減

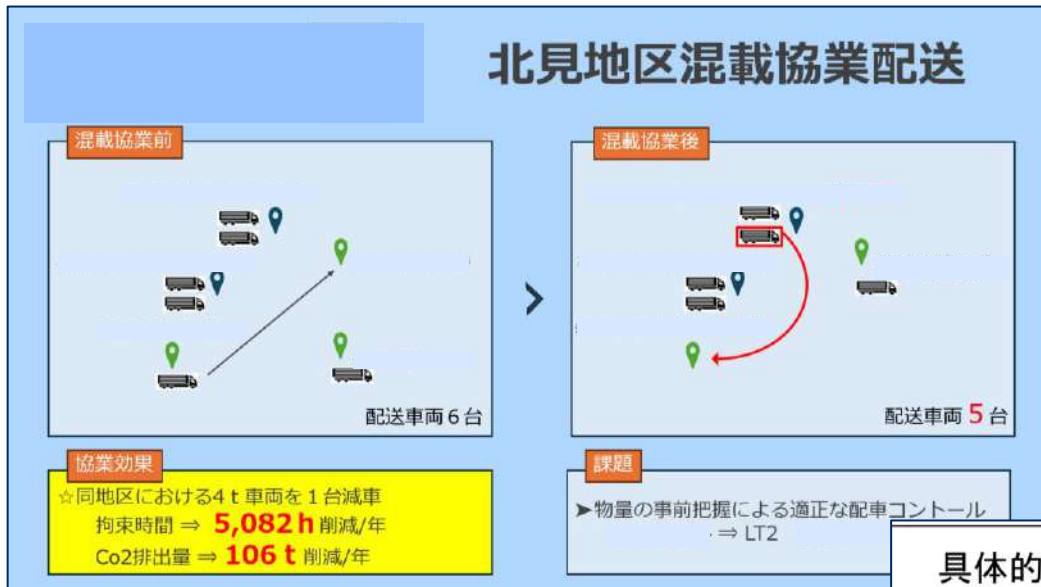
※北海道経済産業局「物流の2024年問題に効く事例集」掲載

● 店舗配送協業実験

- ・同エリア店舗への配送集約
- ・配送集約によるドライバー運行時間の削減
- ・実車率向上による収入増
- ・Co2排出量削減



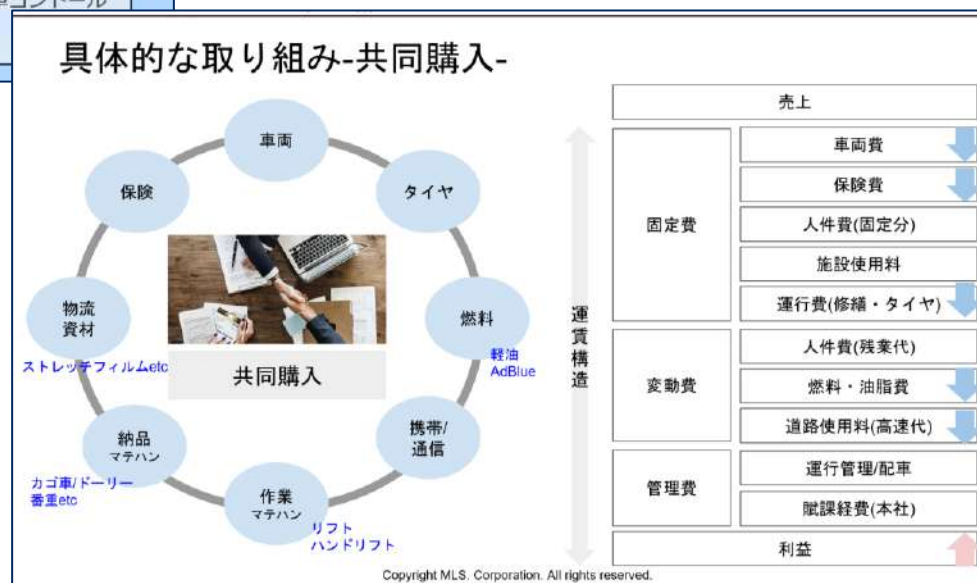
●店舗配送協業



- 同一物流会社による他荷主業務の集約による効率化
- 配送集約によるドライバー運行時間の削減
- 実車率向上による収入増
- Co2排出量削減

●消耗品共同購入検討

- 共同購入によるコスト引き下げ
- 購入価格のもっとも低い企業へ購入先変更



●店舗配送のモーダルシフト実験

モーダルシフト配送による店舗配送実証実験 AEON
イオン北海道株式会社

釧路市、栗林商船と連携しA釧路店、A釧路昭和店の一部商品をモーダルシフト化実験

週2回、苫小牧港～釧路港まで一部商品をRORO船による海上輸送を行い効果検証

- ① 車両削減効果検証：車両便数・運行距離・CO2排出削減量
- ② 運用検証：荷姿・品質・港湾施設等使用感
- ③ 店舗オペレーション検証：店着時間変更・働き方変更・対応店舗拡大試算
- ④ 運用継続性検証：コスト試算

1. 実証実験対象期間
5/24～25 (店着日ベース)

2. 実証実験対象店舗
①A釧路店、②A釧路昭和店

3. 実証実験対象カテゴリー
①住余・H&BC、②衣料品
※グロサリー、リカーは本実証実験では対象外



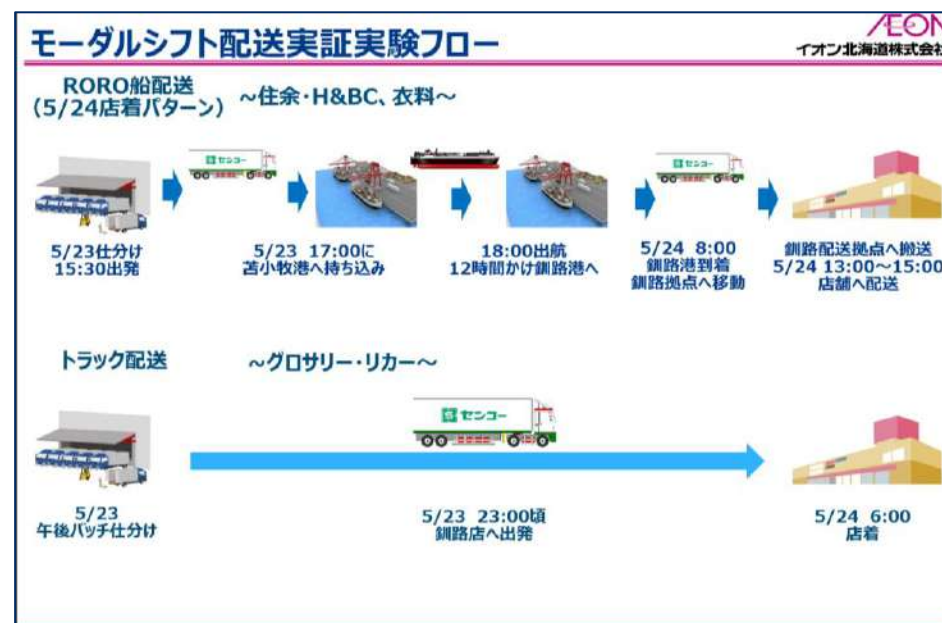
期待効果試算
削減運行距離
29,509km/月間
CO2排出削減量
21,264kg-CO2/月間
削減配送運行時間

苫小牧 出帆時刻	→	22:00	→	出帆時刻
日曜日	20:00	月曜日	8:00	
月曜日	18:00	火曜日	8:00	
木曜日	18:00	金曜日	8:00	
金曜日		土曜日		

※片道約12時間所要

- 他の北海道物流研究会企業へスキームの共有
- より多くの企業がモーダルシフト化への推進を目指すことで地方配送手段の選択肢を拡大していく

- 釧路エリア店舗の配送の一部をRORO船によるモーダルシフト
- ドライバー労務時間削減
- 配送ドライバー人数削減
- Co2排出量削減





◆ 仕組み ～発地と着地／逆パターンをマッチングする～

運輸デジタルビジネス協議会 共同輸送DB分科会のプロトタイプシステムを利用

異業種・複数企業間での共同輸送を活性化することを目的

荷主・物流事業者が自社貨物の「積み地」「降ろし地」を登録
運行実績・頻度・車格等を可視化し共同輸送を希望する他企業を検索

まずは帰り便のマッチングから

データ提供ご協力企業（1年間の輸送実績）

北海道物流研究会メンバー（荷主主体） オブザーバー会員様

エアウォーター物流

ムロオ北海道

北海道センコー

明治ロジテック

トライアル

6-② ALL HOKKAIDO協業を目指して

● 車両動態管理クラウドシステムによる協業の可能性

- ・北海道物流研究会として車両情報を登録
- ・小売業のデータだけでは帰り便マッチングは困難
- ・北海道物流プラットフォームに対してロジスクデータの提供依頼
- ・車両マッチング可能性の可視化

- ・多くの企業のデータ提供が車両マッチングの可能性を高める
- ・車両マッチングプラットフォームとしての可能性

traevo

1件

出発点候補

着地点候補

エリア 都道府県 未選択

エリア 都道府県 未選択

出発点 北海道札幌市

出発点 北海道苫小牧市

戻送距離 50 km以内

戻送時間 60 分以内

トラック すべて

トレーラー すべて

その他 すべて

マッチング候補

市区町村	戻送距離	往復戻送距離	合計	23/3	23/4	23/5	23/6	23/7	23/8		
北海道札幌市	北広島市	39km	北見市	39km	872	77	74	75	78	74	74

●北海道物流プラットフォームへの参画

「北海道物流WEEK」について	
2/19(月)～22(木)の期間を「北海道物流WEEK」とし、行政機関・関係団体・事業者等が連携して「2024年問題」を共に乗り越えるためのイベント・取組を開催。	
第1便 2/19(月)～20(火)	北海道の物流と地域の将来を考える2日間 国土交通省(北海道開発局・北海道運輸局) 「共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム」 経済産業省(北海道経済産業局) 「北海道地域フィジカルインターネット懇談会」 (各機関のホームページをご確認ください)
第2便 2/21(水)～22(木)	北海道の物流と地域の将来を考える実証実験 JRF貨物×北海道通運業連合会の共催による モデルコンピネーション推進に向けた新たなチャレンジの2days (JR貨物(株)のホームページをご確認ください)
第3便 2/21(水)	トラック運送業者連携・共創の集い in十勝 北海道運輸局・北海道開発局の共催によりマッチングイベントを開催
第4便 2/21(水)	北海道トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会 北海道運輸局・北海道労働局・北海道トラック協会の共催により開催 (詳細は後日公表)
第5便 2/22(木)	北海道物流研究会 旧物流問題の課題解決と新たな北海道物流ネットワークの構築に向けた検討を行うため、イオン北海道(株)、(株)西友、(株)トリアルホールディングス、北星タクシー(株)など協賛する14社で令和5年5月に発足
第6便 2/22(木)	日本をスワップボディで元気にしたい「スワップボディコンテナ車両展示会」 札幌商工会議所運輸・自動車部会・北海道物流人倶楽部の共催により開催 (詳細は後日公表)

- ・行政と民間が連携し、「北海道物流WEEK」を開催
- ・北海道物流研究会も参画

今後に向けた展開

「北海道物流プラットフォーム(仮)」の設立

【設立趣旨】

- 「北海道物流WEEK」を機に、このつながりを今後大いに発展させるため、北海道における物流の課題解決や新たなチャレンジを实践、協力し合うなど継続的な情報交換・発信の「場」として、「北海道物流プラットフォーム(仮)」を設立する。
- 北海道における物流に関して、各団体が取り組みを検討していくなかで、部分最適だけでは不足する部分を相談したり、今回一連のイベント・取組として開催した「北海道物流WEEK」のように、関係者が一体的に連携することでインパクトが出るような企画について協力することを主眼とする。

【運営体制】

- 当初は北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局が中心となって担い、「北海道物流WEEK」を契機とした設立趣旨に賛同する有志を構成員とし、構成員の発議を受けて随時、情報交換を行う。(定期的な場も一定程度設定)
- このほか各種団体等に所属する事業者等に広く情報共有するためのML名簿の整理を行うこととし、広く仲間を増やす観点から、MLへの参加については随時受け付ける。

・今年度新たに「北海道物流プラットフォーム」として、行政・民間が通年で物流連携を開始

北海道開発局、北海道運輸局、北海道経済産業局、北海道庁で車両マッチングワークショップ「ロジスク」を開催予定。
北海道物流研究会も、「ロジスク」への参加以外に車両動態管理クラウドをロジスクプラットフォームの一つとして活用を目指し参画。

ワークショップによる「北海道流」物流マッチングモデル 別紙1

ロジスク



「2024年問題」にお困りではないですか？

- 道北方面の物流課題解消に向けて、道内の物流事業者や学識者、行政等と2023年7月に発足した「共同輸送・中継輸送実装研究会」において、ワークショップによる物流事業者間のマッチングモデル「ロジスク」(ロジスティクス+スクラム)をスタートさせました。
- 共同輸送・中継輸送の実現に向けて、北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局・北海道の4者の共催により、「ロジスク」の取組を全道に拡大し、北海道の物流の維持・発展を目指します。

「ロジスク」が他社様とのマッチングをお手伝いします

- 「ロジスク」は、物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場を提供します。
- 従来の車両マッチングアプリとは異なり、マッチング成立→共同輸送・中継輸送の実現まで、行政を含む事務局がサポートすることで、継続性・信頼性の高い協力体制づくりを目指します。

「ロジスク」の参加イメージ

1. 参加者の募集
2. ロジスクに申し込み
3. ワorkshopで実施
4. 共同輸送・中継輸送の実現
5. ロジスク事務局

「ロジスク」にご参加ください！

- ロジスクは多くの事業者の協賛の参加をお待ちしています。
- お問合せは、下記までご連絡ください。

北海道開発局 物流課 事務局 担当 伊藤 啓太郎
TEL: 011-769-2311 (FAX: 011-769-4272)
E-mail: hok-ky-rosisk@hokkaido.go.jp

成立までの協賛・調整を、事務局が特約サポート


すくすく、ロジスク

ワークショップによる「北海道流」物流マッチングモデル「ロジスク」

○道内の物流事業者や学識者、行政等による「共同輸送・中継輸送実装研究会」において、**物流事業者間のマッチングモデル「ロジスク」が完足**

○物流課題や、**共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等**について、**物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場**を提供

○ロジスクとは、**北海道の「ロジスティクス」を、「スクラム」を組んで「スク」スク育てていく**という思いを込めた造語



【『ロジスク』の流れ】

- 1 山積する物流課題**
 - 長時間輸送を改善したい
 - ドライバー不足で輸送できない 等
- 2 エントリー**
 - 参加申込
 - エントリーシートへの記入
 - 自社の輸送業務概要
 - 共同/中継輸送を行いたい業務
 - …などを事前に参加企業と共有
- 3 ワorkshopに参加**
 - 事前に事業概要等の情報を参加事業者間で共有
 - マッチングの「種」探し
 - テーブルで物流課題を協議
- 4 成立に向けたフォローアップ**
 - マッチングが成立しそうな企業と具体化に向けて直接協議
 - 事務局は仲介役として適宜協議参加
- 5 共同輸送・中継輸送成立**

【第1回 道北ロジスク】

- 令和5年10月6日(金) 10:00~12:00
- 旭川市内
- 道北方面の物流に課題を抱える物流事業者や荷主企業 (25の企業・団体等から55名)

【第1回 道央ロジスク】

- 令和5年12月4日(月) 14:00~17:00
- 札幌市内
- 道北・道央方面等の物流に課題を抱える物流事業者や荷主企業 (27の企業・団体等から62名)

【トラック運送業者連携・共創の集いin十勝】
※北海道運輸局、北海道開発局共催

- 令和6年2月21日(水) 13:30~16:00
- 帯広市内
- 主に十勝・道東方面の物流に課題を抱える事業者による意見交換 (22の企業・団体等)

【参加者アンケートの結果】

— 道北 —

Q. マッチングできそうな企業は？ Q. もう少し話したかった企業は？

なかった 21%	あった 79%
なかった 23%	あった 77%

— 道央 —

Q. 全体的な満足度は？ Q. 共同輸送・中継輸送実現の可能性が感じられる企業は？

満足 69%	満足 67%
満足 21%	満足 33%

道北ロジスク会場の様子

- ワークショップ
- フリートーク

道央ロジスク会場の様子

- ワークショップ
- 報道機関の取材

